

街の歴史トリップ

博物館活動センターの古沢仁学芸員ふるさわひとしにお話を聞き、街に残る痕跡などから、札幌の成り立ちや今に迫ります。

【詳細】広報課 ☎211-2036

第1回 はくしゅう 白秋の見た「あの丘」を探して

詩人・北原白秋きたはらはくしゅう(1885年～1942年)は、1925(大正14)年8月に札幌を訪れ、その時の印象を童謡「この道」に描きました。今回は、白秋の足取りを追って、街を歩きます。

童謡「この道」(一部抜粋)

この道はいつか来た道 ああ そうだよ
あかしやの花が咲いてる
あの丘はいつか見た丘 ああ そうだよ
ほら白い時計台だよ

北原白秋 作詞、やまだこうさく 山田耕筰 作曲

「あかしやの花が咲く道」はどこ？

童謡の歌詞には「あかしやの花が咲く道」が登場します。この道は北1条通りとする説もありますが、札幌停車場に降り立った白秋の目には、まず停車場通り(1)のアカシア※並木が飛び込んできたのではないのでしょうか。

※和名ハリエンジュ(ニセアカシア)で、アカシアとは別種



◀絵はがき「(札幌名勝)アカシヤ茂る停車場通り」。1930(昭和5)年ごろ撮影(札幌市公文書館所蔵)



→は写真を撮った方向

丘の上に見えた?時計台のナゾ

白秋は札幌に来た日、現在の北3条広場(アカプラ)の近くにあった旅館の山形屋に宿泊。前年にできた札幌初の舗装道路(2)を、赤れんが庁舎(北海道庁)に向かって歩いたと思われます。

赤れんが庁舎を抜け、来た道を振り返ると小さな坂(3)が。これは、約3,500年前の豊平川が削った河成段丘の名残です。白秋が時計台のある方角を見たとき、高い建物がまだなかった札幌では、街の東側が丘のように見え、その上に白い時計台が見えたのかもしれない。

※「丘」の解釈には諸説あります

3で時計台の方角(東)を見ると…

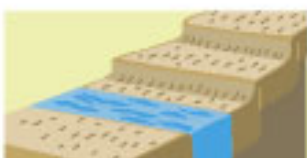


4でも緩やかな坂道になっている



河成段丘とは…

川の流れてによってできる階段状の地形のこと



古沢学芸員のまとめ /

白秋は北大植物園や北海道大学も訪れています。3,500年ほど前に流れていた旧豊平川の流れに沿って、白秋の足取りを追ってみてはいかがでしょうか。